

建築ジャーナル

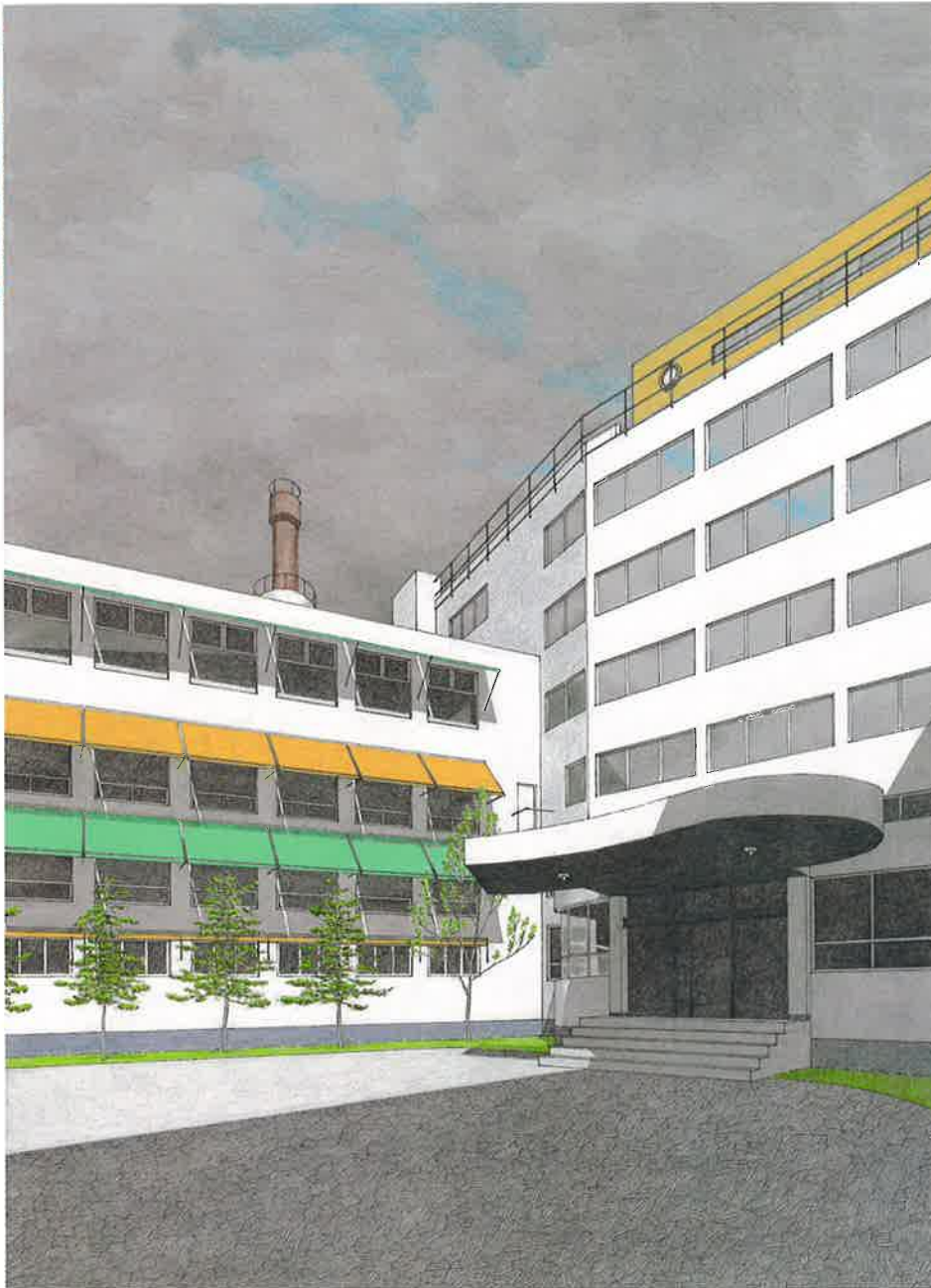
2013年
October
No.1217

第1217号
2013年10月1日発行
(月1回・1日発行)
1964年7月13日
第3種郵便物許可
ISSN 1343-3849

10

定価
900円
(税込み)

イラスト：山本卓郎／山本卓郎建築設計事務所



病院施設は
高齢化・重症化対応に目を向けて
寛淳夫 | 工学院大学建築学部教授

病院側とのヒアリングは
十分な時間をかけて
藤田衛・宮本一平 | 山下設計

病院建築にも
LCB(生活継続建築)を取り入れる
永富誠・柳雅夫・佐藤基一 | 久米設計

ホスピタルエンジニア認定制度を
つくれた理由
小野哲章 | 日本医療福祉設備協会理事

病院施設を万全にするため、
施設課スタッフも毎日当直

小室克夫 | 聖路加国際メディカルセンター施設課マネージャー

高野病院プロポ、
応募条件とは異なる
4階建てを提案

柳澤潤 | コンテンポラリーズ

自治体病院は
地方医療を支える砦
国は本気でバックアップを

邊見公雄 | 公益社団法人自治体病院協議会会長



◎地域の話

昭和初期の最先端教育施設群
京都府立鳴沂高等学校を壊さないで!
谷口菜穂子



◎兼松紘一郎が巡る
建築家模様⑩
手技を失わない
建築の粋
竹原義二

建築最新事情
特集
病院建築
建築集
各地域に拠点を置く
設計事務所の作品集

求められる
病院建築の
「長寿命化」

特集

社会の中で 生命と向き合う

病院建築特集



自立生活復帰を後押しする患者・スタッフともにやさしい環境づくり
熊本託麻台リハビリテーション病院
佐藤総合計画



集中する救急患者の受入体制の拡充を図る
香川労災病院救急棟
東畑建築事務所



甲状腺疾患に関するトップレベルの病院
別府野口病院
日建設計



日本でも数少ない、完全独立型のホスピス緩和ケア病院
みどりの杜病院
メイ建築研究所



高度ながん治療と救急救命医療の拠点
大分県厚生連鶴見病院
山下設計

東日本大震災後に着工した病院が建ち始めている。高度経済成長一辺倒から人口減少成熟社会へ時代が大きな変化を遂げる中、深刻な津波災害や原発事故の経験から、あらためて病院に期待されるもの、あるべき姿が明確になってきたといえよう。救急医療や高度専門医療に特化する病院がある一方で、リハビリや精神科治療のように人によりそったり、地域性や景観というメンタルな部分にはたらきかける病院のあり方も注目される。建替えにあたってもあえて減築に踏み切るものもあり、社会の変化を見据え、長いスパンで解決していこうとする姿勢が見て取れる。災害対策については、エネルギー源確保も含め、どんな病院でもデザインに昇華させていかねばならぬ課題であろう。ここにあげた事例は、ごく一部にすぎないが、医療関係者と病院設計者らの生命と向き合う真摯な共同作業が結実したものである。(編)



南東面全景

自立生活復帰を後押しする患者・スタッフともにやさしい環境づくり
熊本託麻台リハビリテーション病院

設計監理：佐藤総合計画

地域リハビリテーション活動の牽引役として

「リハビリ」という言葉が一般的ではなかった1977（昭和52）年に熊本市内第一号のリハビリテーション承認施設として設立された本院は、一般・小児リハビリに力を入れ、地域に根ざした医療活動を展開している。リハビリ機能の充実を通じて、患者の自立生活復帰を後押しする環境づくりを念頭に計画を行った。

自立生活を支援する回復期リハ病棟

「回復期リハは一日の生活が訓練実践の場」との理念の下、一連の生活行為の中で訓練治療を支援する環境づくりを目指した。病棟ごとに専用の訓練室を設け、移動も訓練の一貫という考えの下、食事、入浴、排泄等の生活行為や憩う場を回遊廊下沿いに分散配置した。回遊廊下自体も楽しいリハビリ空間とすべく、距離を示す目盛やアクセントカラーを各所に計画し、シークエンスが楽しめるような工夫を行った。

すべての人が快適に過ごせる環境づくり

熊本市内第一号のバリアフリー法認定特定建築物の承認を受けた本院は、高齢者や障害者の利用しやすさだけでなく、スタッフにとっても働きやすい環境づくりを目指した。左右どちらの麻痺患者も自立・介助対応できる病室レイアウト、

車いす自立・介助利用のどちらにも対応できる個室トイレ、自立支援の観点からすべて個別化した浴室レイアウトなど、患者・スタッフともにやさしい環境づくりに向け、計画・建設期間を通じて検討を重ねた。

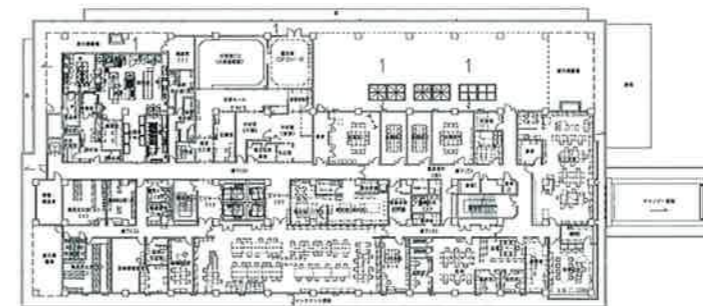
明るく楽しい病院

和紙を通した光、木格子や土壁調塗材などの自然素材で出迎える外来空間は、病院らしくない明るく楽しい空間を目指した。外来主動線のホスピタルギャラリーは、装具を展示するコーナーや地域学生の作品などを展示できる空間の中を貫く。南側沿道にはリハビリ空間を並べ、連続する間柱と植栽とで患者のプライバシーに配慮しつつ、地域に開かれた病院の印象をつくる。病院理念であるノーマライゼーション思想の浸透に向け、地域リハビリテーション活動を牽引し、やさしいまちづくりの舞台となることを期待している。（高橋 明、花本 猛）

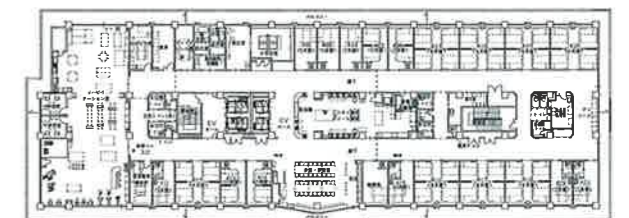
所在地	熊本県熊本市中央区帯山8丁目2番1号	敷地面積	9,875.28㎡
建築主	医療法人堀尾会	建築面積	3,138.51㎡
施工	建築：清水建設 電気：きんでん 空調・衛生：東洋熱工業 昇降機：三菱電機、三菱エレベータ施設	延床面積	10,517.39㎡
構造・規模	RC造 地上6階	竣工	2013年3月
		病床数	142床
		撮影	建築写真ハシモト事務所



上左|南面外観 上右|外来待合 下左|障子窓の1床室 下中|4床室 下右|ホスピタルギャラリー



2階平面図



4階平面図



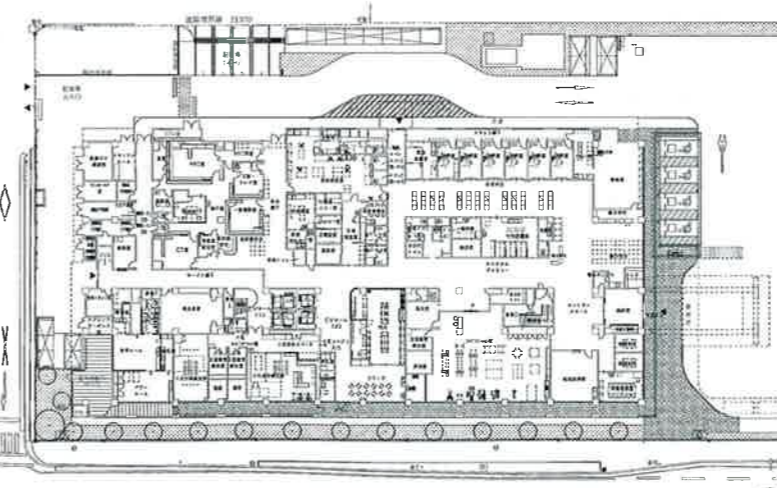
スタッフステーションカウンター



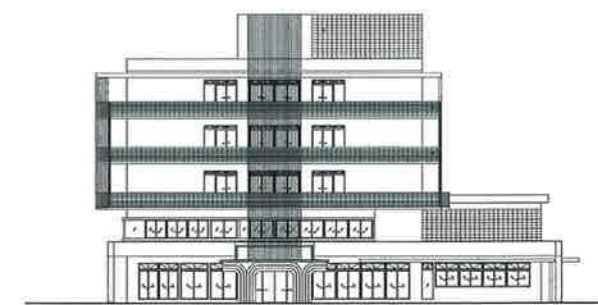
リハビリテーション室（病棟階）



介助浴室



1階平面図



立面図